

今後の八丈島を担う農産物の生産量と販路の確保

対象集団 八丈島レモン生産出荷組合(20人)、八丈島切葉切花共撰共販出荷組合(55人)

注：本資料では、「八丈島レモン生産出荷組合」を「レモン組合」、「八丈島切葉切花共撰共販出荷組合」を「切葉切花組合」と略す。

地域の紹介

八丈町は、東京から南へ約290kmに位置し、海洋性気候の温暖多雨な地域である。農業産出額は約17.8億円(平成29年)で、花き園芸が盛んであり、約15億円が切葉類を中心とした花き・観葉植物の出荷による。中でも、フェニックス・ロベレニーの切葉は産出額全体の42%を占めている。この他に、レザーファン等の切葉類、観葉鉢物、アシタバ、菊池レモンも八丈町の重要な特産農産物である。

課題の設定・目標

1 設定理由

八丈町は、切葉類やアシタバ、観葉鉢物が主力品目であるが、他の収益性が見込める品目でも島内外へ供給体制を確立する必要がある。特に菊池レモンは、ブランド化の取組が活発化し、平成26年度から「八丈フルーツレモン」(図1)の商品名で販売され、更なる生産拡大が望まれている。また、フラの材料となるレイプランツでは、代表的な「ティ・リーフ」が新規品目として栽培され、生産拡大や販路の確保が求められている。



図1 八丈フルーツレモンの果実

そこで、これら2品目の生産振興を図るため、普及指導課題に設定した。

2 目標

(1) 八丈フルーツレモンの生産拡大

① 生産方式別の販売戦略の確立と組織活動の活性化

ア 組織活動の活性化、イ 生産方式別の出荷規格作成、ウ 販路の確定(3カ所)

② 八丈フルーツレモンの栽培技術向上

ア 出荷量増加(12t)、イ 栽培マニュアルの作成・マニュアルに基づく生産(10戸)

(2) レイプランツの生産推進

① 有望品種「ティ・リーフ」の出荷推進(出荷量1.5万枚→3万枚)

② 出荷規格の見直しによる出荷作業の軽減化

③ 新規栽培者の掘り起し(栽培者6人→10人)

(3) キキョウランの安定生産

① 赤さび状症状の発生防止対策

② 栽培・病虫害防除等管理技術の高位平準化、生産性向上(出荷量10万本→12万本)

活動の体制

島しょ農林水産総合センター八丈事業所普及指導センター（以下、普及指導センター）が中心となり、関係機関である八丈町、JA 東京島しょ、八丈事業所園芸振興担当（以下、園芸振興担当）、八丈支庁と連携しながら、各生産組合に対して普及指導活動を実施した。

活動の概要

1 八丈フルーツレモンの生産拡大

(1) 生産方式別の販売戦略の確立と組織活動の活性化

① 組織活動の活性化

レモンの生産者組織は、平成 23 年に JA 公設市場出荷組合の下部組織として設立した。しかし、レモンに特化した組織活動や独自の会計が望まれたため、生産者及びJA、八丈町と協議を重ね、公設市場組合からの独立と新たな生産組合設立を支援した。

② 生産方式別の規格作成

露地栽培と施設栽培のレモンでは品質が異なるため、JAへ共撰出荷されるレモンの定義について検討するとともに、各生産方式による出荷規格の作成を支援した。

③ 販路の確定

レモンの販売促進を図るため、JA及び八丈支庁と連携してPR用チラシの作成や、都主催の「TOKYO イシナ商談会」の参加による販路開拓を支援した。

また、主な出荷先との意見交換会を提案して、販売量の増加に向けた支援を行った（図2）。



図2 仲卸業者との意見交換

(2) 八丈フルーツレモンの栽培技術向上

① 出荷量の増加

被害が多いカイガラムシ類やミカンハモグリガ、サビダニ類等の防除対策資料を作成・配布するとともに、JA及び園芸振興担当と圃場巡回を定期的実施して、病虫害防除や肥培管理を個別指導した。さらに生産者の増加及び技術向上を図るために、新規栽培者の掘り起こしや苗木定植指導、剪定講習会等の指導活動を行った。

② 栽培マニュアルの作成及びマニュアルに基づく生産

今後はレモン栽培マニュアル(暫定版)を作成し、生産者の栽培技術の平準化を図る。

2 レイプランツの生産推進

(1) 有望品種「ティ・リーフ」の出荷推進

JA販売体制の構築、販売促進チラシによるPR、栽培技術指導を行った。

(2) 出荷規格の見直しによる出荷作業の軽減化

JA及び切葉切花組合とともに、現行の細分化された出荷規格を見直して、簡略化による出荷作業の軽減について検討した。

(3) 新規栽培者の掘り起こし

園芸振興担当と連携して、ティ・リーフの新規栽培を生産者へ提案するとともに、新規栽培者に対して栽培要点集の配布や巡回指導を行った。

3 キキョウランの安定生産

(1) 赤さび状症状の発生防止対策

赤さび状症状（図3）の発生状況とハウス内の環境（遮光率、照度等）について調査した。

- (2) 栽培・病害虫防除等管理技術の高位平準化、生産性向上
被害の多いヨトウムシ類について、発生状況調査及び薬剤散布・物理的防除等の指導を行った。



図3 キキョウランの赤さび状症状

成 果

1 八丈フルーツレモンの生産拡大

(1) 生産方式別の販売戦略の確立と組織活動の活性化

① 組織活動の活性化

平成30年6月に「八丈島レモン生産出荷組合」が独立組織として新たに設立した。また、定例会や現地検討会の開催、新たな販路開拓の取組など、組織活動が定着した。

② 生産方式別の規格作成

「八丈フルーツレモン」の定義（表1）及び生産方式別の出荷規格が完成した。さらに出荷規格を基に目合せ会を開催し、出荷時期を決める体制が構築された（図4）。一方、露地栽培のレモンは傷等が少ない青レモンでの早期出荷を行う体制が始まった。

表1 八丈フルーツレモンの定義

◆ 八丈島レモン生産出荷組合運用規約

（令和元年6月26日）より抜粋

1. 樹上完熟した収穫物は「八丈フルーツレモン」の商品名で出荷するが、その定義は、

- ① 収穫時期：樹上完熟栽培とし、収穫時に果頂部まで十分に着色していること
- ② 重 さ：150g以上（ただし、加工用は100g以上）
- ③ 施設栽培：果皮がきれいであること
とし、それ以外の物は、「菊池レモン」で出荷する。



図4 生産者による出荷目合せ会

③ 販路の確定

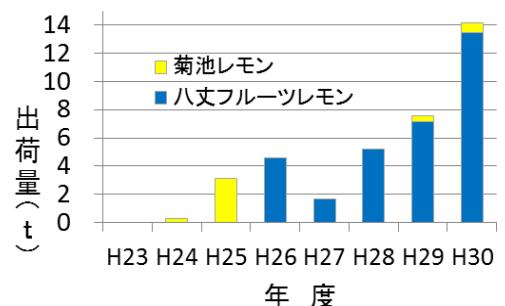
主な販路は、島内出荷の他に、島外6業者（仲卸業者2社、給食業者1社、通販会社1社、菓子製造会社1社、果実加工会社1社）となった。島外では、このうち3社（仲卸、給食業者、通販会社）が継続した販路として定着している。

(2) 八丈フルーツレモンの栽培技術向上

① 出荷量の増加

害虫防除や肥培管理に対する生産者の意識や技術レベルが高まり、出荷物の品質向上につながった。そして八丈フルーツレモンの出荷量も増え、平成30年度産の出荷量は13tに達した（図5）。

- ② 栽培マニュアル作成・マニュアルに基づく生産



※) H29までは八丈フルーツレモンに露地栽培のものも含む

図5 レモンの出荷量の推移

園芸振興担当の試験研究成果や島内生産者の栽培事例を参考に、園芸振興担当と連携して栽培マニュアル（暫定版）を作成中で、今年度内に配布する予定である。

2 レイプランツの生産推進

(1) 有望品種「ティ・リーフ」の出荷推進

出荷量は1万枚前後に留まっている（図6）。

(2) 出荷規格の見直しによる出荷作業の軽減化

現行の出荷規格でも、出荷調整により対応可能と判断されたため、出荷規格の簡略化は行わずに、現行の規格を利用することとした。

(3) 新規栽培者の掘り起し

園芸振興担当と連携して新規栽培者の掘り起こしを行い、2人増加した。しかし、うち1人は栽培が定着しなかったため、現在の栽培者は7人である。

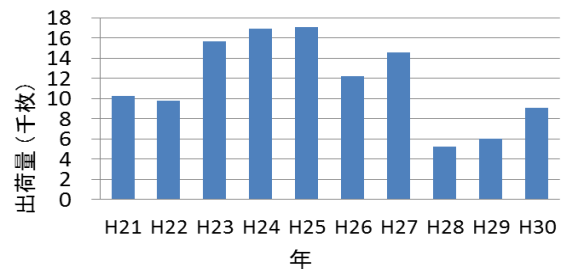


図6 ティ・リーフの出荷量の推移

3 キキョウランの安定生産

(1) 赤さび状症状の発生防止対策

発生時期は4～5月であり、特に遮光率の低いハウスで同症状が多いことが分かった。このため、当面の対策として適切な遮光管理を行うよう指導していく。

(2) 栽培・病害虫防除等管理技術の高位平準化、生産性向上

令和元年度は防除指導を実施し、ヨトウムシ類による被害を抑えられている。また、令和元年(1～11月)の出荷量は14万本で、前年同時期比で122%と増加している。

残された課題

1 八丈フルーツレモンの生産拡大

生産面では、被害の大きい害虫（カイガラムシ類、サビダニ類等）に対し、栽培マニュアル（防除暦）を基本とした防除体系の検証を行う必要がある。一方、販売面では、JAと連携して、計画出荷の取組とともに新たな販路拡大を進める。

また、レモン組合では「八丈フルーツレモン」のブランド化を図るため、将来的に地域団体商標等の登録を目指している。商標登録に関しては、JAや八丈町とも協議を進め、八丈島全体で「八丈フルーツレモン」のブランド化推進を図れるよう支援する。

2 レイプランツの生産推進

ティ・リーフの出荷に関しては、定期的な注文が入らず、安定出荷ができない事が課題である。このため、JAと連携して、これまでの主要な販売先について購入時期や購入希望等を検証する必要がある。

3 キキョウランの安定生産

赤さび状症状の発生防止対策では、遮光率との関係に加えて、灌水量や土壌水分量との関係を明らかにし、発生防止対策を確立する必要がある。また、キキョウラン栽培では、ヨトウムシ類の他にも、低温期に白斑部分が桃色に着色する生理障害や、灰色かび病による葉先枯れ、マイマイ類の多発生等による出荷量の減少が問題である。このため、生理障害の原因究明や薬剤防除の効果確認など、課題別に対策を検討して、生産性の向上を図る。